

【事例集は現在作成中】

はじめに

2020年初めから流行が始まり、地球規模のパンデミック（感染爆発）に至った新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）は、医療機関の構造設備についての課題を浮き彫りにしました。わが国においてもCOVID-19罹患者を感染症病床のみに収容して対応することが困難となり、感染症病床以外の病床に収容し治療する事態となりました。

流行初期の段階では、治療方法や感染する仕組みについての情報が不十分であったことから、COVID-19患者の感染管理上の課題に加えて、通常医療の継続においても大きな負荷がかかりました。

このような状況を踏まえて実施された厚生労働科学研究「一般病床を活用して感染症患者を診療する病床転換のベストプラクティスの共有のための研究」（研究代表者・小林健一・国立保健医療科学院）では、COVID-19患者に重点的に対応してきた病院における管理運営の実践手法、COVID-19患者に対応するための換気空調設計・建築計画手法などを調査してきました。

このハンドブックは、上記研究成果をふまえて、COVID-19患者に対応する際の留意点、建築構造・設備面でのチェックポイント等を分かりやすく整理したものです。一般病床において、院内感染対策、建築構造・設備、看護・運営管理等にどのような注意点があるのかを示しています。

このハンドブックが医療従事者のみなさまのお役に立てる情報源となることを願っています。

小林健一（国立保健医療科学院）